

第 132 回 東海地区三県下(愛知・岐阜・静岡)の企業経営動向調査

1. 概況

全産業の業況総合判断「D.I.」は 6 期連続で「好転」超が
続くものの、全業種で「好転」超幅は減少

1. 業況総合判断「D.I.」は前回比▲3.4 ポイントの 5.1 となるも、6 期連続で「好転」超を示した。
2. 売上高「D.I.」は前回比▲2.7 ポイントの 8.4 となるも、全ての業種で「好転」超となった。建設不動産業では前回比で「好転」超幅が大きく増加したが、他の業種においては、「好転」超幅は減少となった。
3. 収益「D.I.」は前回比+0.9 ポイントの 7.4 となった。全ての業種で「好転」超となり、特に小売業と建設不動産業で大きく好転した。
4. 経営上の課題は、前回調査時同様「人材の育成」や「求人難」の構成比が 4 割超となっており、「人」に関する問題が増加傾向となっている。続いて「売上・受注不振」が問題となっており、他には「新事業展開・技術開発」や「過当競争激化」が上位を占めた。

今回（平成 27 年 10 月～平成 28 年 3 月）は中国を始めとする新興国の経済減速の影響などもあり、傾向判断基準の前回比において全産業の業況総合判断「D.I.」は悪化となった。先行き見通しについても、全産業の平成 28 年 4 月～9 月（見通し）の設備投資「D.I.」は今回実績比▲4.8 と予測しており、慎重な見方が出てきている。

